

イケア：インドとパキスタンで 持続可能なコットン栽培を推進



イニシアティブの概要

2013年1月、スウェーデンの家具・インテリア小売業のイケア（IKEA）が、「ビジネス行動要請」（Business Call to Action：BCtA）に参加し、2015年末までに、持続可能な方法で栽培されたコットンのみを調達・利用すると表明しました。

イケアのイニシアティブの数値目標：

- 2015年末までに、イケア商品に使用するコットンを「ベター・コットン・イニシアティブ」（Better Cotton Initiative：BCI）¹をはじめとした、持続可能な方法で栽培されたコットンのみにする



ビジネスモデル

コットンはイケアにとって非常に重要な原材料です。2012年には15万トンのコットンを商品に利用しており、木材に続く第二の原材料でした。柔らかさと通気性など快適な品質を提供できる唯一の原材料として、コットンは多くの商品に欠かせない存在です。大部分が小規模農家によって栽培されており、農村部のコミュニティに安定した収入をもたらす可能性をもった資源です。ところが、コットン栽培は人や環境にとって大きな懸念を生み出す可能性があることにイケアは気付きました。

イケア商品に使用されているコットンのほとんどは、中国、インド、パキスタンで生産されています。これらの国々でのコットン栽培は、現地の経済と雇用に貢献すると同時に、環境・社会・経済問題の原因にもなっています。

不適切な灌漑は必要以上な水の使用の原因になります。通常の栽培方法では、

私たちは、持続可能性に配慮した商品を誰もが入手できる価格で提供することで、コットンなどの市場・商品の構造的な転換を引き起こしたいと考えています。

イケアグループ
最高持続可能性責任者
(Chief Sustainability Officer)
ステイーブ・ハワード

1 キログラムのコットンを生産するために7,000から29,000リットルの水が必要です。これを原因とする水不足が化学肥料などによる汚染と相まって、農家と土地の両方に社会的、また環境的な負の影響を及ぼします。過度な化学肥料と殺虫剤の使用は、土地を汚染するだけでなく、農家に重大な健康上のリスクを負わせる可能性もあります。インドでは、コットン栽培面積は国内の全耕作地の5%にすぎないにもかかわらず、これに使用される農薬は1年間に使用されるすべての農薬の54%にも上ります。

1. <http://bettercotton.org>

イケアでは、より持続可能なコットン栽培方法の開発に重点を置くことによって、生産量を維持しながら、より低コストで、環境への負の影響が減少するよう努め、その結果として農家の所得を増やすと同時に、イケアのビジネスにとって欠くことのできない原材料の安定的な供給を確保しています。同社では、殺虫剤、化学肥料、水の使用量の削減を推進することによって、農家の生活を向上させることも目標としています。

「ベター・コットン・イニシアティブ」(Better Cotton Initiative : BCI) は、イケアが創設パートナーとして関わった、コットン生産関係者による世界的な共同イニシアティブであり、コットン生産を生産地の環境にやさしいものにし、農家およびコットン産業の将来のいずれにとってもよりよいものにすることを目指しています。イケアは 2005 年から「世界自然保護基金」(World Wildlife Fund : WWF)、および BCI と共同で、インドとパキスタンのコットン農家と協力しながら、殺虫剤・化学肥料と水の使用量を減らすと同時に、BCI 基準に沿ったコットン生産を支援し、農家の暮らしを向上しています。同社は 2015 年末までに、商品に使用するコットンの 100% を、より持続可能な方法で生産されたものにすることを目指しています。また、BCI および WWF と共同で、コットン産業の構造的な転換を図る運動にも参加しています。



「ベター・コットン・イニシアティブ」(BCI) について

BCI に参加しているのは、主に国際企業と NGO で、ジニング（綿繰り）業者と繊維会社の参加も増えています。BCI は、固定の価格プレミアムを盛り込むことなく、従来のコットン市場価格と同じ水準で、新しい主流商品としての「ベター・コットン」（よりよい綿）の市場を開発することを目指しています。²

「よりよい綿」を生産するということには、農家に対してさまざまな技術に関するトレーニングを実施し、これを取り入れるよう推奨するということが含まれます。BCI では、綿のベール梱包に BCI の識別マークを入れる検討を進めており、そのために、種子から農場、ジニング（綿繰り）業者からその先までのサプライチェーンにトレーサビリティ・システムを導入しています。³

また、先進事例やノウハウを会員や関係者間で共有するために、BCI では、サプライチェーン全体や国をまたがる情報の共有を可能にするツールを開発しています。⁴

イケアのイニシアティブ

イケアのイニシアティブは、サプライチェーン全体にわたるビジネスモデルに基づいており、コットン栽培農家への効率の高い生産技術の伝授と、「ベター・コットン」の生産拡大に向け、BCI に参加している生産者組織の能力開発から、生産地および関係者によるサプライチェーンの改善までが含まれています。

コットンのサプライチェーンの構造的転換の実現を図るため、イケアのイニシアティブによって支援され、BCI ガイドラインを順守している農家は、生産したコットンをどのバイヤーにも自由に販売することができます。その結果、世界市場でより多くの持続可能なコットンが入手可能となり、より安定した供給が確保されると同時に、価格の乱高下も抑えることができます。

Innovations

that improve lives

2、3. <http://bettercotton.org>

4.「The IKEA experience in moving towards a Better Cotton supply chain」IDH, The Sustainable Trade Initiative (2012 年) <http://www.idhsustainabletrade.com/katoen-learning>

イニシアティブの成果

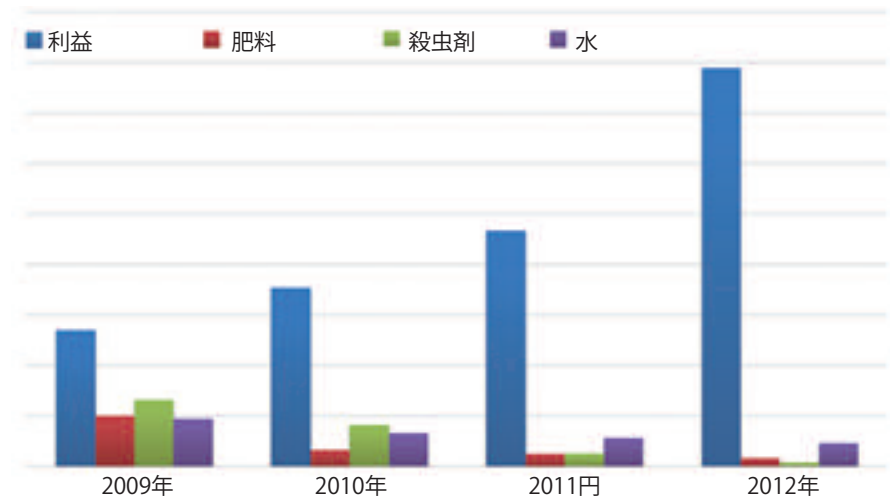
450 軒の農家を対象として、2005 年にスタートしたイケアのイニシアティブに、今では中国、インド、パキスタン、トルコの 10 万軒を超える農家が参加し、水、化学肥料、殺虫剤の使用量の削減をはじめ、よりよい生産管理方法を採用しており、これにより、農家は水と殺虫剤の使用を 50%、化学肥料の使用を 30% 減らすことが可能です。そして、化学肥料や殺虫剤などを減らすことで生産コストを削減することが可能になり、農家の利益が上昇しています。

ビジネスへのインパクト

土壌の劣化、地下水面の低下、技術的ノウハウの欠如によって収穫高が減少し、コットンが収益の上がる作物でなくなると、農家は別の換金作物栽培へと移行していきます。その結果、市場は不安定になり、供給量の変動してしまいます。そこで、従来の方法から「ベター・コットン」に切り換えれば、コットン栽培が長期にわたって利益を生むようになり、イケアおよびサプライチェーンのすべての関係者への供給を確保できることとなります。また、BCI プロセスの確立にはコットンのサプライチェーン全体をよく理解する必要があったことから、イケアにとってはリスク管理の向上にもつながりました。

小売業者にとっても消費者にとっても、持続可能性はますます重要になってきています。消費者は環境の持続可能性に配慮しており、社会的責任を果たしている商品に関心をもちますが、必ずしもその商品に高い金額を支払うとは限りません。「ベター・コットン」のような共通のブランドを作ることにより、イケアは価格競争力のある商品を市場に送り出しながら、環境フットプリントに貢献する商品に対する消費者とイケア自身のニーズを満たすことが可能になります。⁵

インドとパキスタンの農家における生産コストと利益の変化⁶



開発へのインパクト

より持続可能な生産方法が普及することで、コットン生産の全体を大幅に改善するとともに、農家が被る環境的・社会的リスクの軽減につながります。水、農薬、化学肥料の使用量を減らすことにより、農家は出費を抑えて所得を増やすことができるだけでなく、農民とその家族の健康にもよい影響を与えます。

このイニシアティブのもと、殺虫剤や化学肥料などへの投資が減ったことから生産コスト全体が減少しました。一部の農家では、このイニシアティブに参加した結果、収穫量も増加しました。また、殺虫剤や化学肥料などの出費を平均 50% 削減できるため、利益も増加します。新しい生産方法を採用した農家では、年月を重ねるにつれて収益性が高まってきています。



5. 「The IKEA experience in moving towards a Better Cotton supply chain」 IDH, The Sustainable Trade Initiative (2012年)

6. 「イケア-WWFインド・パキスタン・コットン」ファクトシート



主な成功要因

能力を高めるためのパートナーシップ

イケアのイニシアティブは、WWF、「Action for Food Production」(AFPRO)、「Development Support Centre」(DSC)などの現地パートナーと連携して実施されています。

たとえばインドでは、収穫量が少なく、農家の多くが低所得なうえに負債を負っているような、国内で最も貧困に苦しむコットン栽培地域で、これらの現地パートナーが農家と直接連携しながら活動しています。重点を置いているのは、化学肥料と殺虫剤の使用を最小限に抑えるとともに、可能な場合には化学肥料を天然の肥料に置き換えて土壌と水を保全することです。共同で農業資材を購入して収穫物を販売する生産者団体への農家の参加を支援することにより、農家の生産コストを抑えることにも努めています。⁷

WWFはインドとパキスタンにある事務所を通して、活動の範囲、アプローチ、手段、対象の側面からプロジェクトを企画しています。WWFは現場での活動の実践にも責任を負っており、コットン栽培農家に能力開発の支援とトレーニングを提供するとともに、必要な情報を共有し、他の組織との連携も進めています。

つながりの構築

農家の能力の向上は、「ベター・コットン」にとって最も重要です。しかし、「ベター・コットン」として生産されたコットンがサプライチェーンに組み込まれなければ、また、イケアが顧客に販売する最終商品となるまでを追跡できなければ、そのプロセスは不完全なものとなります。そのため、農家から綿繰り業者、そして綿の仕入れ業者などへと、サプライチェーンの参加者の間に一連のつながりが作り出されています。⁸

規模の拡大

イケアは資金を供給するだけでなく、サプライチェーンのパートナーがより多くの持続可能なコットンを取り入れるよう促進しています。そのアプローチには、より持続可能な方法でコットンを栽培できる農家の能力構築と、2015年末までにより持続可能な供給源からのコットンの利用率を100%にするという目標を設定することによる「ベター・コットン」の需要の創出が含まれています。イケアのサプライヤーにコットンを供給する農家は、イケアとWWFの定めた環境基準を守るだけでなく、BCIが定義した「適正な仕事」の労働権の目標に準拠していなければなりません。このアプローチは、より持続可能なコットン生産に貢献し、「ベター・コットン」の拡大に向けた強力なステップとなります。

次のステップと波及効果

使用するコットンが確実に社会的および環境への責任を果たす方法で生産されるようにするために、イケアはサプライチェーンの最も上流までを把握する一方で、これを需要に結びつける必要があります。イケアでは最終的に、インドとパキスタンでの活動が自立し、能力開発や農家と綿繰り業者の連携に直接関わる必要がなくなることを期待しています。

イケアでは今後も現地パートナーと連携して、このイニシアティブの規模を拡大し、コットンのベール梱包にBCIの識別マークを入れることを通じて、「ベター・コットン」の供給と需要を結びつけていく計画です。また、成功事例および情報の共有を継続して、現在実施しているイニシアティブが成熟するまで、活動の規模を拡大し、コットン産業の構造転換を図っていく計画です。



7. 「イケア-WWFインド・パキスタン・コットン」ファクトシート

8. 「The IKEA experience in moving towards a Better Cotton supply chain」IDH, The Sustainable Trade Initiative (2012年) <http://www.idhsustainabletrade.com/katoen-learning>



BUSINESS
CALL TO
ACTION



BCtA に関するお問い合わせ先:
国連開発計画 (UNDP) 駐日代表事務所
Tel: 03-5467-4751
www.BusinessCalltoAction.org
www.jp.undp.org

2013年11月発行